



湧き出でよ人材

創立100周年記念碑より

今月のテーマ
出会い

本部町立伊豆味小中学校

No.2
R8.4.16
発行

学校だより

文責 校長 伊波 勉

小1・2年生



「交通安全教室」



4月15日(水)に1・2年生は、正門前と公民館前の歩道を使い、横断のしかたや歩道の歩き方について学びました。続いて、県道にある押しボタン式信号機の正しい使い方と、安全な横断のしかたについても教えていただきました。



小3～6年生

小3～6年生は「自転車の点検のしかた」や「正しい乗り方」を本部警察署の外間さんに教えてもらいました。点検で大切なのは「ブタはしゃべる」です。そのあと実際に道路に出て、発車のしかたや、横断のしかたなど詳しく教えてもらいました。ありがとうございました。



「こうちゃん」(腹話術人形)の登場に、子どもたちは大興奮でした。本部町交通協会の新川さんとこうちゃんの掛け合いを通して、交通ルールについて分かりやすく説明していただきました。

「行動様式」

4月10日の全校集会では、行動様式について確認しました。今回は、単に「規律だから守る」という指導ではなく、「なぜその行動がよいのか」という意味や価値を大切にしました。ゲームを取り入れながら進め、小学生にも分かりやすく、楽しみながら主体的に考えている姿が多く見られました。学校生活での集団行動は、子どもたちが安心して学び、生活するための大切な基盤です。例えば、整列や集合、話の聞き方、移動の仕方などの基本的な行動は、一見すると単なる「きまり」に見えるかもしれませんが、これらは安全を守ることや、学習を効率よく進めること、そして仲間と気持ちよく過ごすことにつながっています。特に体育の学習や行事など、集団で活動する場面では、こうした行動がしっかりと身につくことで、活動の充実度や安全性が大きく高まります。

また、集団行動は、仲間との関わりを深めるうえでも重要です。自分の行動が周囲にどのような影響を与えるのかを考えたり、合図や指示に合わせて動いたりする経験を通して、協力する力や責任感が育っていきます。さらに、周囲の状況を見て機敏に行動することや、リーダーの指示に従うことは、将来社会の中で求められる力にもつながるものです。

伊豆味校では、こうした行動を単なる形として身に付けさせるのではなく、「自分たちのために必要なもの」として理解し、納得して行動できるように指導していきます。子どもたち一人一人が意味を理解し、自ら考えて動くことができこそ、真の集団としての力が発揮されると考えています。

ご家庭におかれましても、ぜひお子さんがどのようなことを学んだのかを話題にしながら、日常生活の中での行動や約束の大切さについて共有していただければ幸いです。学校と家庭が連携しながら、子どもたちのよりよい成長を支えていきたいと考えております。

